生存圏 何って??

「材鑑調査室」のおはなし

材鑑調査室は
1978年、国際木材標本室総覧に正式登録され
それを契機として1980年に設立されました。
現在も材鑑標本の収集ならびに
樹種識別を積極的に行っています。

作：杉山 淳司
マンガ製作：京都精華大学大学院芸術研究科
作画：金 銀喜（キム ウンヒ）
編集：石田葉月

へー！ 材鑑調査室ってこんな所にあるんだ！

なんか森の中って感じ～

おおッ！ めっちゃウッディーな香り！

ガラガラ

杉の床かァ～

ようこそ、材鑑調査室へ

私達は木の文化の申し子です
日本書記にスサノヲノミコトがヒゲを抜いて蒔いたら杉に…ってあるくらい、昔から木を植えて生活していました。

法隆寺も桧作りなんですよ。五重塔の心柱って知ってますか？

へー

年輪の数は350年！ あ、これほんまもんですよ

長生きの木は長持ち！ 桧は特に建物に使われました。

木によって用途が違うんです。適材適所って言うでしょ？

どんな木がどこに使われるか調べてみると日本人の知恵がわかります。

松 ヒノキ 1000年変わらぬ丈夫さで法隆寺等の大建築に使用されたり、水に強くて良い香りなのでお風呂に。

桐 キリ 下駄

柊 ヒイラギ そろばんの玉

※コレらも木材をうまく利用している例です。

他に何がわかるんですか？

はーい、では年輪の話をします

樹木の多くは、春から秋にかけて成長しその繰り返しで年輪が出来るんです。

春 秋 春 秋 春 秋 春 秋 春 秋 春 秋

だから環境に関係する降雨量、気温、異常気象といった情報が年輪の中に満載なんです。温暖化の調査にも役立っているんですよ。

例えば！ 年輪から年代がわかります。法隆寺の心柱からは法隆寺建立の100年も前に切られたのではないかという推測ができるのです！

スゴイなー

つまり、もっと古いお寺があったのかもしれない訳！

おもしろいですね～！ では何故木材はそんなに長持ちするんですか？

そうそう

ボクも思った

それは木材そのものの性質もあるんだけれど、人々が世話をして維持をするからです。木材自体は凄くゆっくりだけど老化していくんですよ。

へえ～

そこで、老化のメカニズムを調べて文化財の修復に役立てます！

えっ！ どうするんですか？

わざと古い木材にするんです！

新しい木を使用すると、温度や湿度の変化で膨らんだり縮んだりするので、元の木材を壊してしまうかもしれません。
強制劣化させた木材は狂いがなく、色も古い木材と同じになります。

180°C

だから修復される側の仏様もジャストフィットするから喜んでくれるんです。

こんな日本人特有の木の文化を研究するのが材鑑調査室の仕事の1つです。

21世紀を迎えて新しい木の科学を創造する為の大きな役割を担っています。

ではまた！

おわり